

## 脳MRI健診済み

帝産観光バス 200台以上は初

## ステッカーを貼付



認定ステッカーはドア近くの上部に(20日、品川)

帝産観光バス(東京・品川区、市川慎一社長)は、全国の全6支店(東京、名古屋、京都、奈良、大阪、神戸)の運転者290人を対象に脳MRI(磁気共鳴画像装置)の検査を実施し、このほど「運転従事者脳MRI健診支援機構」(代表理事 水町重範・水町メデイカルグループ代表)から買っている。これまで約1

50社約6000人を認定し、このうちバスは約110社約4000人と多くを占めている。「ステッカーを貼れば完璧とは思っていないが、乗客にとつて安心の証明になる」と帝産観光バスの久保田博幸総務部副部長。「新しく入ってくる運転者にも随時検査する。全社的には3年に1度の割合で更新の検査をしていく」と力を込める。

機構の野口一郎業務部長は「通常、これだけ多くの運転者の健診には3年はかかるが、帝産はわずか1年で一気に終えた。それだけ運転者の健康に気を配って

いる」と評価。「このステッカーで乗客に安心感を与えていく。そんなバスを1台でも多く出したい」と話している。